

季刊 旬のブンカが集うコミュニティマガジン

# ブンカ

BUNKA

vol.  
85  
2022  
summer



旬の文化が集うコミュニティマガジン

季刊

ブンカ

BUNKA VOL.85 2022.6.15

発行/公益財団法人福井県文化振興事業団 福井県立音楽堂「ハーモニーホールふくい」  
〒918-8152 福井市今市町40-1-1 ☎077-638-6288 <https://www.hkf.jp>



Interview  
300人の中から選ばれた  
福井ゆかりの新星  
俳優 佐桑有香氏



ハーモニーホールふくい

東尋坊(坂井市)



平泉寺にある東尋坊の碑。近くには屋敷井戸の跡もある。



東尋坊
住所/福井県坂井市三国町安島
TEL/0776-82-5515(東尋坊観光案内所)
アクセス/
・北陸自動車道金津ICから車で約15分
・えちぜん鉄道三国駅から京福バス利用約15分
・JR芦原温泉駅から京福バス利用約45分

平泉寺(東尋坊の碑)

荒々しい崖壁に伝わる 悲しい愛の物語

福井の観光地として名高い「東尋坊」。越前加賀海岸国定公園に位置し、国の名勝・天然記念物に指定されています。1300万年前のマグマが固まった巨大な柱状の岩(柱状節理)が続く海岸線は、世界的にも珍しく、迫力の景観を海から間近で眺められる遊覧船も人気です。

東尋坊には、悲しい愛の物語があります。その昔、勝山・平泉寺に「東尋坊」という怪力の僧がいました。ある時、美しい姫君に心を奪われ、真柄覚念という僧とライバル関係になります。覚念は仲間と謀り、東尋坊を呼び出してこの崖壁で酒盛りを始め、酔ったところを海に突き落としてしまいます。すると、それまで太陽が輝いていた空には暗雲が垂れ込み、海は荒れ狂ったそうです。

これが「東尋坊」の由来だそう。東尋坊と平泉寺を巡る、マラソン&ピクニック企画「愛の馬拉ニック大会」も今年で10年を数え、愛の聖地としても注目されています。

CONTENTS

- 1 今号の表紙
2 Essay 縄文から現代まで 若狭の歴史に思う人の表現の力 文 朝倉由希氏
3 Interview 300人の中から選ばれた 福井ゆかりの新星 俳優 佐桑有香氏
5 「ハーモニーホールふくい」自主公演情報
9 越のルビーアーティスト 笠松泰洋氏(作曲家)
10 アートシーンを召し上げられ 蟻塚知都氏(彫刻家)
11 私の好きなハーモニーホールふくい 金子三勇士氏(ピアニスト) / カーテンコール
12 アートに会いに「日華化学 NICギャラリー」(福井市)
モノガタリはここから「大野市エキサイト広場総合体育施設」(243 清陰高校男子バレー部)
13 2022年7~9月開催「ハーモニーホールふくい」コンサート情報
14 Information

読者のみなさまへ

新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、掲載している公演の開催日時や出演者などの情報は6月1日時点のものであり、予告なく変更される場合があります。詳しくは「ハーモニーホールふくい」の公式WEBサイト(https://www.hhf.jp)をご確認ください。

Essay

縄文から現代まで 若狭の歴史に思う人の表現の力

文 朝倉由希



あさくらゆき ●福井市生まれ・在住。京大文学部卒業。東京藝術大学大学院音楽研究科応用音楽学博士後期課程修了。博士(学術)。アートマネジメント、文化政策を専門とする。2017年度から文化庁地域文化創生本部研究官。2021年4月から公立小松大学国際文化交流学部准教授。現在、文化庁文化創造アナリスト、福井県芸術文化アドバイザー。共著に「文化で地域をデザインする―社会の課題と文化をつなぐ現場から」(学芸出版社、2020)など。

小浜と京都の出町柳を結ぶ若狭街道は、鯖などの魚介類が運ばれたことから、通称鯖街道とも呼ばれる。道中には、かつて宿場町として栄えた熊川宿があり、伝統的な建物が往時を今に伝えている。

「熊川宿若狭美術館」は、この熊川宿の通りにある。開館は2018年5月。古民家を改修した建物が街並みに溶け込み、内部は黒く立派な梁が印象的だ。

2018年夏、私は文化庁研究官として、2人の職員とともに開館したこの美術館を訪れた。同年6月、「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」が施行された。年度内に基本計画を策定するため、全国の優れた取り組みを調査していたが、その対象のひとつだった。

長谷光城館長と若狭町の職員さんから事業内容や経緯、意義を伺った。ここでは子ども美術、障害者アート、現代美術を同列のものとしてとらえ、展示している。長谷館長は同町内の「若狭ものづくり美学舎」を運営



熊川宿若狭美術館 提供

していて、障害者や支援を必要とする人々の表現活動を「きらりアート」と名付けて育成や展示活動を実践してこられた方だ。日本でも近年、障害者アートは「アール・ブリュット(生の芸術)」として注目を集めている。言葉の元の意味は障害者に限らず、美術教育の枠組みを超えた表現者の、独創性あふれるいきいきとしたアート作品を指す。ところが日本では「アール・ブリュット=障害者のアート」として普及してしまったため、障害者の表現活動は特別なカテゴリーに分けられるという弊害が指摘されている。

これらをすべて一緒に展示するという手法は非常に珍しい。すべての人が対等に表現し、肯定し、認め合う。それは、あらゆる人々が特性と能力を生かし共に生きるという共生社会のあり方につながる。この日は縄文博物館にも伺った。「若狭の自然も、縄文時代の文化も、現代アートも全てつながっている」と長谷館長。展示されている土器、木製品などを見ると、素朴で機能本位の印象だ。それでも当時、高度な漆工技術が存在したことが調査から分かっており、赤や黒の漆で土器や木製品に絵画的な文様が描かれている。いわゆる作家やアーティストがいたわけではないが、人々が協力し合い、より豊かな生活を模索する中で、結果として美が生み出されたのであろう。 交易や人の往来が豊かな文化を育んできた若狭の地で、人は誰もが根源的に表現する力を持っていることに、あらためて思いを致した。

俳優

# 佐桑 有香

*Yuka Sakuwa*

300人の中から選ばれた  
福井ゆかりの新星



## 宝塚に魅せられて ミュージカルの世界へ

新作ミュージカル「雪の女王」のオーディションで、約300名の中からゲルダ役を射止めた佐桑有香さんは、お母様が福井出身で、現在もお祖母様が福井在住という福井ゆかりの俳優です。

「子どもの頃は、毎年夏祭りの時期には親戚一同が祖母の家に集まり、いとこやはとこたちと一緒に神社のお祭りに遊びに行くのが楽しみでした」

そんな佐桑さんがミュージカルに目覚めたのは中学3年生の時のこと。学校の芸術鑑賞教室で宝塚歌劇の舞台を観たのがきっかけだったそうです。

「将来、どんな道に進もうかと考えていた時に出会った舞台で、自分もあそこに立ちたい、と思ったんです。実は小さい頃から歌や音楽は大好きで、小学生の時には遊びというカラオケに行っていたほど。また中学では吹奏楽部でクラリネットを担当していました。心の奥底にあった歌やお芝居をやりたいという思いが、宝塚の舞台を見たことで爆発したのかもしれない」

高校に進み、ミュージカルのスクールで本格的に歌やダンスのレッスンをスタート。大学は大阪音楽大学短期大学部ミュージカルコースに入学します。「大学には、小さい頃から歌やダンスを習っていたような人がたくさんいました。そんな中でオリジナル・ミュージカルの主役を2年続けて演じる機会があり、自分もこの世界でやって

いけるのではないかとという気持ちを持つようになったんです」

## 「おばあちゃんに恩返しをしたい」という思い

大学卒業後は1年間、劇団四季で研究生として研鑽を積みますが、そこでやってきたのがコロナ禍でした。さまざまなオーディションを受けながらも、「この後どうなるのかわからず、永遠に就活を続けているような感覚でモヤモヤしていました」という佐桑さん。そこに飛び込んできたのが、「雪の女王」オーディションのニュースでした。

「叔母から、福井でミュージカルのオーディションがある」という連絡をもらったんです。この叔母をはじめ福井には祖母やいとこたちがいて、いつも私のことを応援してくれていました。福井でミュージカルの舞台に出演すれば、そんな祖母たちに恩返しができると思い、オーディションを受けることを決めました」

オーディションは「今までに体験したことのないもの」でした。事前に課題は与えられず、音楽をその場で聴きながら表現していくというやり方は初めてで、とても緊張したそうです。また最終審査には、「これまで舞台などで私が一方的に知っている俳優さん」もいて、そういう人と戦わなければならないというにより緊張感が増したそうです。結果は見事合格。新しい才能がその蕾を開いた瞬間でした。

## 出会いの場から、今 大きな世界へと踏み出す

「宝塚歌劇団の男役スターだった水夏希さんと共演できるなんて夢みたいですよ」と顔をほころばせる佐桑さんですが、オーディションというのはひとつの「出会いの場」です。「錚々たるメンバーの方と共演できることになり、このチャンスに感謝しています。私は名のある俳優ではないので、できることを一生懸命やるしかありません。皆さんから教えていただくことを貪欲に吸収してできることをやっていこうと思うの

みです」  
インタビュー中も素直で真っ直ぐな視線で話す様子がとても印象的だった佐桑さん。実はこれが人生で初めてのインタビューだったとのこと。未来のミュージカルスターの第一歩を記す舞台を楽しみに待ちましよう。

構成・文/室田尚子  
(音楽評論家)



5月22日、ハーモニーホールふくい大ホールにて行われたミュージカル「雪の女王」の記者発表にて舞台挨拶をする佐桑さん。左は同じくメインキャストの古田伊吹さん、右は鈴木梨紗子さん。

協賛: FUKUVI リフォジュール株式会社 アリス化学 ※詳細はP.5へ

9/19(月・祝)

〈開館25周年記念公演〉ミュージカル「雪の女王」

●大ホール/2回公演 ①12:15開場 13:00開演 ②17:15開場 18:00開演  
●全席指定・車いす席 ¥3,000 (小〜大学生:半額)  
原作/アンデルセン 脚本・作詞/高橋知伽江 作曲・音楽監督/笠松泰洋  
演出/広崎うらん 出演/鶴見辰吾、水夏希 指揮/清水麗輝  
演奏/ヴァイオリン:松谷由美、岩上杏子 ヴィオラ:山口梨恵 チェロ:山内睦大  
コントラバス:西口 勝 フルート:内田彩葉美 オーボエ:高山郁子 クラリネット:前川明音  
ホルン:長谷川陽一 打楽器:平岡愛子、山崎智里 ハープ:佐々木美香 オルガン:長谷川佳子

さくわ・ゆうか●高校卒業後、大阪音楽大学ミュージカルコースに進学し、本格的にミュージカルを勉強する。2年間、歌や芝居、ダンスを学び、同学のオリジナルミュージカル3作品では主役を務める。また在学中、小学校への出張公演や幼稚園公演に参加。卒業後、劇団四季研究所にて1年間レッスンを積み、その後はフリーで活動しミュージカル「ひめゆり」などの舞台に出演。今年3月から、関東のテーマパークにキャストとして出演中。



ヴァイオリン：ジェームズ・エーネス 指揮：ファビオ・ルイージ



管弦楽：NHK交響楽団

ルイージが紡ぎ出す  
新たなN響の響きを味わう

NHK交響楽団の新首席指揮者ファビオ・ルイージは、イタリア出身で古典から現代まで幅広いレパートリーを持つ、文字通り世界のトップ指揮者。N響とは2001年以来、度々共演を重ね、この9月ついに首席指揮者のポストに就きます。「N響の伝統を新たに見つめていく」ということがルイ

ジが掲げたテーマ。日本のトップ・オーケストラとして日本各地で演奏会を行うことも重要な責務だと語っています。

福井公演は、その第一弾に位置付けられるもの。N響得意のベートーヴェンとブラームスをチョイスしたところにもルイージの福井公演にかけける意気込みが感じられます。新時代のN響の響きを体験できる貴重な機会です。どうぞお聴き逃しなく！



落語：春風亭昇太



音曲師：桂 小すみ

福井で日本再発見！  
落語と音曲が誘う世界

コロナ禍の中、安心してエンターテインメントを楽しみたいという方は、こちらの公演に足を運んでみてはいかがでしょうか。テレビ番組「笑点」の司会でもおなじみの春風亭昇太の独演会です。昇太は実は大のお城好きで、一乗谷朝倉氏遺跡の「名譽お屋形さま」に就任しています。もしかす

ると歴史に題材をとった噺が聞けるかも?! 一乗谷で歴史ロマンに浸った後は、福井との縁浅からぬ昇太の話芸を堪能する。そんな過ごし方もできそうです。

また前座には、花形落語大賞を受賞するなど今も注目を集める若手音曲師・桂 小すみさんが三味線と小唄で登場します。秋の一日、日本の古典文化を思う存分お楽しみください。

協賛：福井新聞社 福井銀行

〈開館25周年記念公演〉  
ファビオ・ルイージ首席指揮者就任記念  
NHK交響楽団  
ヴァイオリン：ジェームズ・エーネス

9.25 日

16:15開場 17:00開演 / 大ホール  
S席・車いす席 ¥10,000 A席 ¥8,000  
B席 ¥6,000 バックシート ¥4,000  
(小~大学生:半額)

特別協賛会員 2割引

出演 / 指揮：ファビオ・ルイージ  
ヴァイオリン：ジェームズ・エーネス  
管弦楽：NHK交響楽団  
曲目 / ベートーヴェン：ヴァイオリン協奏曲  
ブラームス：交響曲 第2番



チケット発売日(電話・窓口・インターネット)

会員先行 特別協賛：6/14(火) 友の会：6/15(水)  
一般 6/18(土)



水 夏希 鶴見辰吾



佐桑有香 古田伊吹 鈴木梨紗子 大山大輔



GOH IRIS WATANABE 山下哲弘 岡野一平 蛭牟田実里

「福井発の新作ミュージカル『雪の女王』は、オペラや演劇など様々なジャンルで活躍する300名から選ばれた8名のメンバーが、俳優の鶴見辰吾、元宝塚歌劇団トップスターの水夏希と共にメインキャストとして出演します。ゲルダ役のミュージカル界の新星・佐桑有香、NHK連続テレビ小説『エー

ル』に出演したカイ役の古田伊吹ほか、オペラ歌手として数多くの舞台に出演する大山大輔、2.5次元からストリートプレイまでジャンルを問わず活躍するGOH IRIS WATANABEなど多彩なメンバーは、いずれも実力派ぞろい。県民オーディションで選ばれた60名の合唱やダンサー、そして「越のルビーアーティスト」を中心としたアンサンブルと共に、夢の舞台をつくり上げてくれることでしょう。

協賛：FUKUVI リファージュ株式会社 アリス化学

〈開館25周年記念公演〉  
ミュージカル「雪の女王」

9.19 月・祝

2回公演 ①12:15開場 13:00開演  
②17:15開場 18:00開演  
大ホール

全席指定・車いす席 ¥3,000(小~大学生:半額)  
原作 / アンデルセン 脚本・作詞 / 高橋知伽江  
作曲・音楽監督 / 笠松泰洋 演出・振付 / 広崎うらん  
出演 / 鶴見辰吾、水 夏希 ほか 指揮 / 清水醒輝  
演奏 / ヴァイオリン：松谷由美、岩上杏子  
ヴィオラ：山口梨恵 チェロ：山内睦大  
コントラバス：西口 勝 フルート：内田彩菜美  
オーボエ：高山郁子 クラリネット：前川明音  
ホルン：長谷川陽一 打楽器：平岡愛子、山崎智里  
ハープ：佐々木美香 オルガン：長谷川佳子



(夜公演のみ)

チケット発売日(電話・窓口・インターネット)

会員先行 特別協賛：6/14(火) 友の会：6/15(水)  
一般 6/18(土)

〈開館25周年記念事業〉  
みんなで楽しむ大合奏  
「プラス・ジャンボリー in 福井」

9.18 日

16:00開演  
野外ステージ(雨天時:小ホール)

参加無料(事前申込制)  
※別途、譜面購入費が必要ですよ

入場無料

出演 / 指揮：小松長生  
曲目 / エル・クンバンチエロ  
宝島、名探偵コナン メインテーマ ほか  
参加申込：7月下旬  
事前練習会：8/28(日)、9/11(日) 嶺北  
9/4(日)、9/10(土) 嶺南  
※詳細は公式WEBサイトをご覧ください  
(協力：ヤマハミュージックジャパン)



左：「風の門」井上武吉 作



右：「光。無限の空間」井上武吉 作



イメージ

プラス・ジャンボリー

秋の青空の下  
”おとであふれるひとときを”

「プラス・ジャンボリー in 福井」は、「二人ひとりがプレイヤーになろう」をテーマにまちづくりに取り組み、おとまち@福井「プロジェクト」のひとつ。公募によって集まったおよそ100名の管打楽器愛好家が、大合奏の醍醐味を味わいながら演奏する吹奏楽の祭典です。当日の出演はもちろん、県内3会場です。事前練習会を予定。本番に向け

て熱量が大きくなっていくこともこの企画の魅力のひとつです。

同日、井上武吉の彫刻をはじめとする館内にあるアート作品を鑑賞するツアーを開催。「世界の非常に美しいコンサートホール25」選に選ばれたハーモニーホールふくいのおとまち@福井を、楽しむことができます。

休日のひととき、ハーモニーホールふくいでおとまち@福井に開かれて過ごしてみませんか。



ピアノ、プロデュース：木下由香



ピアノ：松永みなみ



ピアノ：伊藤明美

見て、聴いて  
ピアノの世界に飛び込もう！  
子育て中のアーティストがプロデュースする恒例「秋の子ども音楽会」。今回はピアノの魅力をつぶりとお届けします。木下由香を中心に3人のピアニストが繰り広げるソロ、連弾、2台ピアノなど、バラエティ豊かなピアノの世界をご家族でお楽しみください。コンサートのお手伝い役「ママパパディレクターズ」(公募)は7月活动開始予定です。

協賛：日華化学

秋の子ども音楽会  
「ステージできく」コンサート(仮題)

11.6 日

2回公演 ①10:15開場 11:00開演  
②13:15開場 14:00開演  
大ホールステージ  
ステージ席・2階席(全席自由) ¥2,000  
(0歳~高校生:半額)  
出演/ピアノ、プロデュース:木下由香  
ピアノ:松永みなみ、伊藤明美  
制作補助:ママパパディレクターズ

チケット発売日(電話・窓口・インターネット)

会員先行 特別協賛: 8/23(火) 友の会: 8/24(水)  
一般 8/27(土)

協賛：福井新聞社 FBC 福井テレビ

大宅さおりピアノリサイタル

7.8 日

18:15開場 19:00開演/小ホール  
全席指定・車いす席 ¥3,000  
(小~大学生:半額)  
出演/ピアノ:大宅さおり  
曲目/ショパン:幻想ポロネーズ  
シューマン:交響的練習曲  
ベートーヴェン:ピアノソナタ 第18番 ほか

チケット発売中



ピアノ：大宅さおり

円熟のピアニスト  
その「今」を聴く  
現代音楽のスペシャリストとして、また優れたコンサート・ピアニストとして確固たる歩みを重ねてきた大宅さおり。今回選んだ4曲には彼女が積み上げてきたものが刻印されているといえるでしょう。中でもバルトークの「ミクロコスモス」は大宅らしい選曲。長い歴史の中から生まれたピアノ音楽の真髄を味わえる必聴のリサイタルです。



指揮：扶間美帆



ジャズバンド：デンマークラジオ・ビッグバンド

協賛：福井信用金庫

挟間美帆&デンマークラジオ・ビッグバンド

11.18 日

18:15開場 19:00開演/大ホール  
全席指定・車いす席 ¥6,000(小~大学生:半額)  
特別協賛会員・友の会会員 2割引  
出演/指揮:扶間美帆  
ジャズバンド:デンマークラジオ・ビッグバンド  
(協力: FBC)

チケット発売日(電話・窓口・インターネット)

会員先行 特別協賛: 8/23(火) 友の会: 8/24(水)  
一般 8/27(土)

北欧ジャズの中心地  
コペンハーゲンからの使者  
1950~60年代、デンマークの首都コペンハーゲンにはアメリカから多くのジャズ・ミュージシャンがやって来ました。現在でもレジエント達の名前を冠した通りが残るジャズの街コペンハーゲンから、デンマークラジオ・ビッグバンドがやって来ます。グラミー賞にノミネートされた首席指揮者の挟間美帆と共に、最先端の北欧ジャズをお届けします。

共催：福井新聞社

若い芽コンサート2022

8.6 日

18:15開場 19:00開演/小ホール  
全席自由・車いす席 ¥1,000  
(小~大学生:半額)  
出演/ピアノ:馬嶋心々、森 蒼志、矢賀部光夏多  
フェスティバル・カルテット  
(ヴァイオリン:松谷由美、岩上杏子  
ヴィオラ:山口梨恵、チェロ:荒井 結)  
曲目/第1部:ソロ・ステージ  
第2部:弦楽四重奏との共演ステージ

チケット発売中



ピアノ：森 蒼志



ピアノ：馬嶋心々



ピアノ：矢賀部光夏多

未来を切り拓け！  
3人のピアニストたち  
毎年恒例「若い芽コンサート」。今年も2月に開催された公開オーディションで選ばれた3人が出演の切符を手に入れました。今回はなんと全員が中学生！シヨパン、ベートーヴェン、シューマンなど中学生らしいからぬ重量級のプログラムは、未来の利器を予感させます。夢の実現に向けて一歩を踏み出す3人を応援しにいらしてください。



企画構成・解説:小宮正安 ソプラノ:吉田珠代 ヴァイオリン:近藤 薫



ヴァイオリン:戸上真里 ヴィオラ:加藤大輔



チェロ:渡邊辰紀 コントラバス:遠藤 隆一郎

協賛：URALA

オペラ・アリアと弦楽の調べ  
～モーツァルトに消えた才能たち～

11.27 日

13:15開場 14:00開演/小ホール  
全席指定・車いす席 ¥3,000(小~大学生:半額)  
出演/企画構成・解説:小宮正安  
ソプラノ:吉田珠代 ヴァイオリン:近藤 薫、戸上真里  
ヴィオラ:加藤大輔 チェロ:渡邊辰紀  
コントラバス:遠藤 隆一郎  
曲目/モーツァルト:「フィガロの結婚」から「楽しい思い出どこへ」  
「ドン・ジョヴァンニ」から「言わないでください、敬愛する人よ」  
アイブラー:弦楽五重奏曲 ほか

チケット発売日(電話・窓口・インターネット)

会員先行 特別協賛: 8/23(火) 友の会: 8/24(水)  
一般 8/27(土)

知られざる18世紀音楽を  
アリアと弦楽五重奏で楽しむ  
東京フィルのコンサートマスター近藤薫と仲間たちが、東京フィルとの共演も多い福井出身のソプラノ吉田珠代と共に、オペラ・アリアと弦楽による演奏会を開催。モーツァルトと同時代の知られざる作曲家達に光を当てます。企画・構成はヨーロッパ文化史研究家の小宮正安。小宮の解説で18世紀音楽の新たな一面を知ることのできる絶好の機会です。

協賛：福井新聞社 FBC 福井テレビ

打empathy vol.20 ～百花繚乱～

10.16 日

13:15開場 14:00開演/小ホール  
全席指定・車いす席 ¥3,000  
(小~大学生:半額)  
出演/打楽器、マリンバ:Pulse Du  
(平岡愛子、山崎智里)  
ピアノ:菊池亮太  
曲目/ヤリウヴ:Gyro  
ジョン・ウイリアムズ:映画「SAYURI」から さゆりのテーマ ほか

チケット発売日(電話・窓口・インターネット)

会員先行 特別協賛: 7/19(火) 友の会: 7/20(水)  
一般 7/23(土)



打楽器、マリンバ: Pulse Du



ピアノ：菊池亮太

人気YouTuberが贈る  
新感覚ライブ  
「打empathy」は人気打楽器デュオPulse Duが毎回テーマを決めて福井県内各地で行っている自主コンサートシリーズ。その記念すべき第20回は、チャンネル登録者数46万人を超える人気ピアノYouTuber 菊池亮太との共演です。福井でのイベント共演をきっかけに意気投合した3人の「現代」を感じさせるパフォーマンスにご期待ください。



## 彫刻家 蟻塚知都



ありつかかずと●1997年福井市(旧美山町)生まれ。2009年に劇団「みやま木ごころ一座」に入団し、約10年にわたり役者や演技指導を経験。福井大学・同教職大学院で美術と教育について学ぶ。現在は県内中学校に勤務。2019年「i」第7回有志展(福井県立美術館)、2021年「至んで消エテ」蟻塚知都・福田裕理二人展(鯖江市まなべの館)、「Point of View-視点の礎-」(ギャラリー-FIXA)など。

■活動報告はこちらから  
 kazutoarizuka  
 2023年1月からギャラリーライ(福井市)で個展を開催予定

「Arts Happen!」は、福井県内のレストランやカフェなどの飲食店などで、県内や福井にゆかりのある若手アーティストを中心とした作品を展示・販売する取り組みです。



人間の「歪み」を  
 シンプルな技法と造形で表現

印象的な赤い壁に、しっくりと溶け込むテラコッタ像。福井市のレストラン「グラン・シェフクレーゼ」の店内に、木版画と共に飾られている蟻塚知都さんの作品。2020年に県と芸術文化活動を後押しする任意団体「アーツ&コミュニケーションふくこ」の連携で始まった「Arts Happen!」の第1号です。

「重量物を掛けられるレールがあったので、オーナーの久世さんと相談して、壁の色になじみ、匂いの心配もないテラコッタの作品と、コントラストが際立つ白黒の木版画3点に決めました」。久世さんは「店内の雰囲気も良くなり、お客様との話題づくりにもなっています」と喜びます。

大学では彫刻、中でも木彫を専攻に選択。それは、「彫る」という最もシンプルな技法と、深い表現力に惹かれたからだと言います。作品では、劇団活動で感じていた人間の持つ「歪み」をテーマに、余計な装飾をそぎ落とした単純な造形と素材の力での表現を試みています。この像も、体幹を際立たせるために、手は不要だと判断。素焼きのあと立体感を出すために少しだけ白化粧をして、後はクスノキの板目と合わせるだけにとどめたそう。その分、肩のズレやろっ骨の緊張感がくっきりと浮き上がります。「人は正しくありたいと思うし、左右対称が美しい」と思いがち。でも実際は一人ひとりと違うし、ズレていても歪ん



グラン・シェフクレーゼ  
 福井市今市町40-1-1(ハーモニーホールふくい敷地内)  
 TEL/0776-38-8833  
 営業時間/11:30~20:30LO(水曜は~16:00)  
 月曜定休(祝日の場合は翌日)

## 福井ゆかりの音楽家 越のルビーアーティスト 笠松泰洋(作曲家)



かさまつ・やすひろ●1960年福井県生まれ。東京大学文学部美学芸術学科卒業。蜷川幸雄演出の舞台やH・アール・カオスのダンス作品など、国内外で数々の作品に音楽を提供し高い評価と絶大な信頼を得る。舞台性のある音楽作品にも挑み、2011年には室内オペラ「人魚姫」を上演。2018年、文化庁文化交流使に指名。開館25周年記念公演「雪の女王」で、作曲・音楽監督を担当する。

音楽は、根源的なもの。  
 言葉や人種、国境を越え、  
 人を結びつける力があります。

1995年上演の「ハムレット」(出演/真田広之、松たか子)を皮切りに、長年にわたり蜷川幸雄の舞台音楽を手がけてきた笠松さん。蜷川さんとの最初の出会いは19歳で、その後10年の時を経て偶然再会。笠松さんが予備校の講師をしながら作曲活動の続け、舞台音楽にも挑戦し

ていると知り、「ハムレット」に繋がりました。

「若造だった僕の音楽を聴き、演出プランも変えてくれました。相手が誰であれ、アーティストとしてどう人と関わるか。生きる姿勢を学びました」

みんなが一体となって芝居に向かうおもしろさに取りつかれた笠松さんは、以後も世界中でさまざまな舞台音楽に挑戦。2011年発表の室内オペラ「人魚姫」は、現在でも再演が続く代表作となりました。

2018年、笠松さんは文化交流使に指名され、南米、ロンドン、ウィーンで、現地の演奏家に尺八を使った自身の作品を演奏してもらいます。実感したのは、「音楽は変わらない」ということ。「国により演奏が違ってくると思ったが、辿り着くところは同じ。言葉や人種、国境を越え、音楽は人間の本能・本質に深く根ざす根源的なものだと確信しました」と言います。

9月にハーモニーホールふくいで上演する「雪の女王」では、



5月22日、ハーモニーホールふくい大ホールにて行われたミュージカル「雪の女王」の稽古時に、音楽監督としてキャストの指導をする笠松さん。



文化交流使として訪れたウィーンで上演された笠松さん作曲のオペラ「人魚姫」。カーテンコールでは出演者からも盛大な拍手が贈られました。

作曲・音楽監督を担当。「荘厳なパイプオルガンがある舞台は、「雪の女王」のイメージにぴったり。演出の広崎うらんさんとは以前からの知り合いで、今までの集大成になると思います。」

コロナ禍やウクライナ侵攻など世界的に不安が渦巻く中、「音楽は人を結びつける力がある」と語る笠松さん。この秋、その想いが「雪の女王」の音楽となって響きわたる、人々の心をつないでいきます。



公式ホームページでは「越のルビーアーティスト」の演奏動画もご覧いただけます。  
<https://www.hfh.jp/artistbank/>

■今後の活動  
 ・2022年12月16日(金)、17日(土): 谷川瀬里葉・松木詩奈デュオリサイタル「二つの夜」(笠松泰洋作品)/北ノ庄クラシックス  
 ・2023年3月12日(日): 森山開次構成・振付・出演、石川県立音楽堂「千手舞道成寺」(笠松泰洋作品)/石川県立音楽堂

<https://www.facebook.com/yasuhiro.kasamatsu>

## 日華化学 NIC ギャラリー (福井市)



廃材でアートを生み出す長坂真護 (MAGO)。売り上げでガーナのスラム街にリサイクル工場を建てて還元するなど、SDGsを活動で体現。2022年9月10日から上野の森美術館 (東京) で個展を開催。

日華化学株式会社 (福井市文京4-23-1 TEL.0776-24-0213)

界面科学と毛髪科学を基礎として、繊維加工用薬剤や化粧品を始めさまざまな分野で事業を展開。小堀哲夫氏が設計した「NIC」は光や水、風など福井の風土を生かした機能性も評価され各種の建築賞を受賞している。

2017年に完成した「NIC CAイノベーションセンター (NIC)」は、多種多様な人々が行き交うバザール (市場) をイメージ。異なる思考や価値観がぶつかることで新たな価値を生み出す「創発の場」がコンセプトです。県産材や越前和紙など地元素材を取り入れた1階エントランス付近に、福井ゆかりのアート作品を展示する「NICギャラリー」があります。

来客へはもちろん、「面白い」「こんな作家がいるんだ」など社員らの関心も高く、搬入時には作家との会話も生まれているそう。限られたスペースながら、定期的に作品を入れ替えて空間を変化させることで、見る人にも刺激を与えています。4月に始まった長坂真護 (MAGO) さんの展示は、6月に作品を入れ替えて、9月まで続きます。

## アートに会いに

Meet the Art

## 大野市エキサイト広場総合体育施設 (大野市)



アニメの第2話と第4話に登場。外観はもちろん、赤、黄、青の観覧席が並ぶアリーナや、玄関ロビーなどもそのまま描かれている。大野市内では他にも銭湯やJR越美北線、市内の風景、「天空の城」のポスターなどが登場する。

大野市エキサイト広場総合体育施設  
住所 / 大野市桜塚町601  
TEL / 0779-66-1433

### 2.43清陰高校男子バレー部

©壁井ユカコ / 集英社・アニメ「2.43」製作委員会

東京の強豪中学バレーチームで活躍していた灰島公誓は、あるトラブルがきっかけで子ども時代を過ごした母方の郷里・福井へ転居。再会した幼なじみの黒羽祐仁と共に、バレーボールを通じて成長してゆく。登場人物のキャラクターがそれぞれに魅力的。福井の風景や地名、小ネタも楽しめる。

物語の舞台となった県内ロケ地をご紹介しますこのコーナー。第1回は2021年にテレビ放送されたアニメからです。中学2年の黒羽祐仁は、幼なじみの灰島公誓が福井に戻って来ると知り大喜び。ところが、まったく周囲を寄せ付けない灰島。唯一バレーボールが接点となり、灰島の采配で弱小男子バレー部は一気に力をつけていきます。舞台は奥越・大野とおぼしき地

方都市。県中大会が行われた体育館のモデルが、大野市エキサイト広場総合体育館です。勝ち進むと思いきや、思わぬハプニングで中学時代を不完全燃焼で終える2人。清陰高校で再び個性的な仲間たちと共に、春高バレーの全国大会を目指すこととなります。アニメには県内のスポットやグルメなどが数多く登場。8月末まで、聖地を巡るデジタルスタンプラリーも開催中です。

## モノガタリはここから

私の好きな

## ハーモニーホールふくい



### 金子三勇士 (ピアニスト)

かねこみゆじ ●日本人の父とハンガリー人の母のもとに生まれる。2008年バルトーク国際ピアノコンクール優勝の他、受賞歴多数。'21年に日本デビュー10周年を迎え、新譜CD「フロイデ」をリリース。ハーモニーホールふくいには'16年、'17年、また'22年5月1日「金子三勇士&若きピアニストたち」で登場。



\*知られざるピアノの寝床と金子さんが表現したピアノ庫。ハーモニーホールふくいは大ホール、小ホールそれぞれの舞台裏にピアノ庫があり、24時間365日、絶え間なく温湿度調整が行われています (写真は小ホール)。

私がコンサートホールで普段演奏するのは「フルコンサートグランド」という最もサイズの大きいピアノですが、このピアノは使用されていない時は湿度が入念に管理されている専用個室「ピアノ庫」で眠っています。厳選された木材を主役として、金属、フェルト、クロスなどの様々な部品によって作り

あげられているピアノにとって、特に多湿な環境ではせっかくの調律が台無しになってしまいます。ホールを訪れる楽しみのひとつは、そこで所有されているピアノとの出会い。さあ、お目覚めの時間です！私はピアノ庫でそのまま練習することがあるくらい、その場所が気に入っています。

ご存じですか？  
コンサートホールの「ピアノ庫」

## カーテンコール



司会進行、福井の子どもたち3人との共演、そして自身のソロステージと、面目躍如の活躍を繰り広げた金子さん。「音楽を身近に」という金子さんの想いが溢れた、温かなひとときとなりました。

- すべて聴きたい曲でした！子どもたちには素晴らしい経験になったことでしょう。(70代/女性)
- 子どもたちの技術に感動、金子さんの凄さに驚き。(50代/女性)
- ロマン派の名曲を堪能しました。(70代/男性)
- 「献呈」はもともと好きな曲ですが、今日は聴いていて心動かせられ涙が流れました。(40代/女性)
- 金子さんの演奏は初めて聴きましたが、情熱的でドラマチックな演奏に、すっかりファンになってしまいました。(20代/女性)

## 風と緑の楽都音楽祭inふくい 金子三勇士&若きピアニストたち ～鍵盤で魅せるロマンのぬくもり～

2022年5月1日(日) 開催



左から 金井直美さん  
金井千紗ちゃん (福井市)

娘のピアノ教室のお友達が出演するので、見に来ました。「音がきれいでカッコよかった」と娘は大喜び。同じ曲を練習して上手に弾けるようになりたいと、意欲も出たみたい。金子さんのお話は面白く、ダイナミックなピアノ演奏も堪能できて、親子で素敵な時間を過ごせました。



左から 土手塚富子さん  
土手塚史郎さん (福井市)

趣味でピアノを弾いています。「第九」は今まで聴いた中で一番激しく、圧倒されました。かわいい子どもさんとの連弾も楽しく、自分が高校時代に人前で披露した曲も演奏されて懐かしかったです。演奏会には2人で時々来っていますが、今日のピアノの演奏には、夫も大満足でした。

